

株式会社 本間利雄設計事務所

本社 〒990-0021
山形県山形市
小白川町4-13-12
電話 023-641-7711
事業内容 地域計画・設計・監理



イタリアの風景との出会いから

株式会社 本間利雄設計事務所 代表取締役

本間 利雄氏

昨年にイタリア北部山岳地方を訪れる機会があった。イタリアへの旅は五回目になる。今日的なイタリアのデザインやファッション、グルメなどもかく、ルネサンスを生んだ国であり、多様な文化を根底に持つそれぞれの都市の個性や魅力に強く惹かれる。さらには、私の故郷にある基督教独立学園を卒業し、彫刻家としてローマに二十数年住んでおられる加藤朝美さんの存在も大きい。この度のイタリア行の目的は、イタリア北部のアルプスの山々に立地するダムの実態調査とその周辺の景観調査(財団法人ダム水源地環境整備センター主催)である。もちろん加藤さんに連絡を取り、その調査団に参加していただいた。

限られた十日間、ワーゲンを走らせた。水河地帯に程近い高山のダムの視察から麓の集落のホテルに戻る途中、山間の集落にひとつふたつと明かりが灯る様を見て、「火の用心、火の用心」と家々を回った子供の頃を思い出した。つましい生活だったが豊かな自然とともにある生活に喜びを感じられる時代だった。

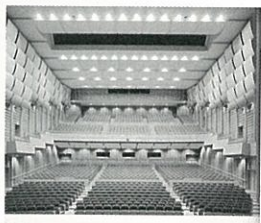
ミラノやローマ、ベネチアなど、イタリアを代表する大都市だけが全てではない、例えばイタリア中部にある中世から続く山岳都市や、今回見たアルプスの谷間の小さな集落などは、実に個性的に輝いている。そんなところの教会の塔を中心とした広場では、集う人々が親しげにワインを飲み合い、談笑する様子が毎日見られた。ヨーロッパの中でも後進的な存在と見なされ、重きをおかれることが少なかったイタリアであるが、日々の生活の何と美しいことか。

数年前、酒田市民会館の設計に関わり、そのホワイエに加藤朝美さんの彫刻照明の

作品を企画した。加藤さんは、小さな彫刻作品ながらもはるかイタリアの文化と歴史の薫りで満たされた美術性の高い明かりを灯させ、その空間を引き締めてくれた。加藤さんは何度かローマから酒田を訪れたが、彼の背後にあるイタリア人気質を携えた職人文化に山形との共通性も感じた。

人間の輝きを尊重するポスト工業化社会で、個人の創造的なセンスを表現できる山形と、夢を光らせるルネサンスを生んだイタリアの輝きが私の内で重なり合う。

これまで経済一途に歩んできた我が国の在り方は変わらなければならない。効率性や合理性を追求してきた工業化時代の発想から脱却して、自然と共に生き、育まれてきた集落の景観、歴史ある都市の景観を大切にしつつ、生活の楽しさや環境の美しさを求めなければならない。人間が生き生きと生活できる空間をこの山形に創り出せればと、改めて考えさせられた旅でもあった。



酒田市民会館「希望ホール」